

第1回 魅力あふれる公園づくり構想策定委員会 議事録

1 日 時

令和3年8月20日（金）午後2時00分～午後3時30分

2 場 所

社会教育センター401 研修室

3 出席した委員 14名

委員長：瀬口哲夫

委 員：岡田行永、杉浦世志朗、武田正雄、永田憲正、大野裕史、近藤莊太、名倉充男

岸本浩子、高井智幸、稲吉豊治(代理：志賀雅樹)、前野宏光、石原 章、宮田孝裕

4 欠席した委員 0名

委員：なし

5 事務局

清水公園整備推進監兼公園緑地課長、小川課長補佐、林工務係長、堀場主任主査、新美主事
加藤スポーツ振興監兼スポーツ課長、内田課長補佐、酒井業務係長、松原主事

6 傍聴者

12名

7 公開・非公開の別

公開

8 議題

- (1) 魅力あふれる公園づくり事業について
- (2) 市民の意見聴取法や今後の進め方について
- (3) 5つの公園の特色と目指すべき公園像について
- (4) スケジュール

質疑

《議題（１）について》

説明（資料５：魅力あふれる公園づくり事業について）

（資料６：市民の意見聴衆方法や今後の進め方について）

【委員】

資料６ワークショップのメンバーの人員構成について、刈谷市では、共存・協働のまちづくり推進委員会を通じて、まちづくりコーディネーターを養成している。現在３０人ほど、認定を受けており、まちづくりの活動をしているため、地域特性に応じたメンバーとして声をかけてほしい。また、障がい者団体や子育て世代、ふるさとガイドボランティア、外国人とコミュニケーションを図っている団体などにも声をかけて頂きたい。

【事務局】

今後、ワークショップメンバーを選定していく予定であり、選定にあたりご意見を踏まえ検討していく。ワークショップ前に策定委員会を開催するため、その際に人員構成をお示ししたい。

【委員長】

ワークショップの人数はどこかに書いてあるのか。

【事務局】

今回の委員会では素案の作成をワークショップにより進めていきたいと提案している段階であり、人数はこれから決めていく予定である。会場の広さや運営などから参加できる人数は限りがあるので、人員構成を踏まえながら人数を決めていく。

【委員】

ワークショップメンバーに中学校の代表生徒を選任しているのはなぜか。

【事務局】

中学生を選任する理由として、誰もが行きたくなる公園を考えるには、できるだけ幅広い世代の方々に参加してもらうことが必要であると考えている。中学生とした背景として、以前中学校で、公園の将来像を考える授業に参加させてもらったことがあり、その中で公園の魅力を向上する取り組みについて活発に議論がされ施策の提案がされていたことから、一番若い世代の意見として中学校の代表生徒の方に参加をお願いしていきたいと考えている。

【委員】

資料６の表にあるパブリックコメントの実施時期は表記の通りで良いか。通常のスケジュールであれば、パブリックコメントは最終案として実施するためその前に策定委員会を開催するのではないのか。

【事務局】

委員の言われますようにパブリックコメントの実施は、最終案の形で行うこととなるため、パブリックコメントの前に策定委員会を追加開催する形でスケジュールの見直しを検討する。

【委員長】

市民の意見聴取方法について、委員会の意見と市民の意見の前後の関係の指摘をいただいたが、公園緑地課の提案に従うのではなく、皆さんの意見をいただきたい。今回のここが一つのキモになる。

ワークショップの参加者が限られるため、5つの公園である日突然行って見て、使っている人に色々ご意見を聴くみたいなのは効果がないのか。公園を使ってない方、使いにくい方のご意見を聴くことも重要だが、一方で今公園を使っている方の意見を聴取することもあるのかと思うが。

【事務局】

利用している人に意見を頂くことについては、今後、行う方向で検討していきたい。

【委員長】

各委員から頂いた意見をもとにワークショップメンバーの選定や今後の進め方については、検討をして頂きたい。

《議題（2）について》

説明（資料7：5つの公園の特色と目指すべき公園像について）

【委員】

いろんな公園に観光協会の行事として桜まつり、わんさかまつりなどで関わっているが、その中で5つの公園づくりの将来構想は第8次総合計画と整合性はあるか。

【事務局】

総合計画は市全体の計画であり、すべての分野について大きな方針を示しているため、計画の整合性については、総合計画に即し具体的な方針を示す都市計画マスタープランや緑の基本計画に位置付けていく。また、都市計画マスタープランと緑の基本計画は現在、改定中であり、5つの公園は「緑の拠点」として位置づけるよう調整を進めている。

【委員】

構想を策定する中で、現在の総合計画で位置づけている亀城公園で歴史の感じられる要素である、石垣や隅櫓などはどのような取り扱いになるのか。

【事務局】

これまで事業を進めている経緯もあるため、ワークショップなど構想の検討を進めるなかでこれまでの取り組み内容について丁寧に説明しながら、検討を進めていきたい。

【委員】

今回策定する将来構想に記載がないため、取り組むことができないということは避けたい。亀城公園についても、将来構想の策定の中で議論していただきたい。

北部では、スマートインターチェンジの供用開始、南部では、依佐美工業団地があり、将来的に、公園周辺の交通量が多くなることが予想されるが、ファミリー世代や体の不自由な方たちにも優しいアクセスを検討するのか。

【事務局】

総合計画等関連する計画への位置づけについては、本構想と整合するようしっかりと調整しながらやっていきたいと考えている。公園へのアクセスについては、これからワークショップの中で頂いた意見をもとに検討していきたい。

【委員】

5つの公園それぞれでワークショップを行うのか。各公園で特色があり、一斉に開催するのは難しいのではないかと考えている。スケジュール(案)では、計4回となっているが、想定しているワークショップの日程を教えてください。

【事務局】

各公園を北部(洲原公園、岩ヶ池公園)、中部(総合運動公園、亀城公園)、南部(フローラルガーデンよさみ)に分けて、各地区でワークショップの開催を検討している。回数は各地区で4回の開催を想定している。これから、ワークショップの進め方を決めていくため、その内容にあわせて開催回数を決めていきたい。

【委員】

各公園の「目指すべき公園像」に応じたターゲットに該当する人員をワークショップの参加者として選出するのはどうか。

【事務局】

ターゲットを設定している理由としては、魅力のある公園としての整備方針を定めやすくすることが目的であり、基本的には5つの公園は全世代を対象として考えている。なお、ターゲットは全世代の中でも主に利用する世代を位置付けている。ワークショップの人員構成としては、資料6に記載のあるその他(地域特性に応じたメンバー：大学生、スポーツ団体、ボランティア団体指定管理者等)で対応していくことを検討している。

【委員長】

総合運動公園で考えられる、新しいスポーツや障がい者スポーツの意見はどこで聞くのか。

【事務局】

新しいスポーツや障がい者スポーツの意見については、新しく施設を利用される方、スポーツを

始める方など、幅広い分野での意見から検討していく。

【委員長】

パラリンピックの開催もあり、障がい者スポーツは今後、注目されるスポーツであるため、意見ができれば意識すると良い。

総合計画との関係もありましたけど、市民の使う側からの視点を取り入れた公園づくりが今後いいのではないかという意見があり、それを意識した公園像のテーマとターゲットにしたほうがいいと思うが、事務局の説明を伺うと意識していると思う。今後、その辺りを確認しながら進めていったほうがいいと思う。

【委員】

SDGsの関係で色々な取り組みをしていると思うが、人工的な公園づくりが進んでいく中で、環境に負荷がかからないような自然を生かした公園づくりを検討していただきたい。

【事務局】

洲原公園や岩ヶ池公園は自然に恵まれており、特に岩ヶ池公園の北側では自然を生かした公園づくりを検討していけるとよいと考えている。いただいた意見も踏まえながら整備と自然のバランスを取りながら検討をしていきたい。

【委員長】

公園の池にいる渡り鳥や水生生物はどう扱うのか。小動物と人間との関わり合いをどうとらえていくのか。

【事務局】

渡り鳥や水生生物は、公園の持つ特徴のひとつとして検討を進めていきたい。

【委員長】

公園の中にどんな生物がいるのか把握できていると良い。

5つの公園の特色と目指すべき公園像、ターゲットについては、方向性に大きな変更は特にない。また、コロナ禍の中で、大きな公園の使い方は見直されてきていると考える。コロナの影響による公園に対する考え方や使われ方の変化が分かることで、市民も安心して利用することができると思う。

【事務局】

ワークショップを行う前に各公園にて利用者アンケートを実施することで利用実態を把握していく。

【委員長】

次回の策定委員会では、今回各委員から頂いた意見を踏まえて検討した内容を説明して頂きたい。

《議題（３）について》

説明（資料８：スケジュール(予定)）

【委員】

コロナの影響がある中で、ワークショップ、策定委員会等の開催が複数回あるので、余裕を持った日程調整を行って頂きたい。

資料６と資料８にスケジュールの記載があり、分かりにくいため、次回の策定委員会までに資料構成を検討してほしい。

【事務局】

スケジュールについては、策定委員会でいただいた意見を反映するとともに、コロナの影響も踏まえて見直し、策定委員会ごとに示していく。

また、資料構成については、今後同系の内容はまとめるなど分かりやすく示すように努める。

以 上